

## 蟻通神社 遷座 80 年記念 第 9 回「ありとほし薪能」

### ありとほし薪能実行委員会

#### ■活動内容

国登録有形文化財である蟻通神社舞殿において神社遷座 80 年およびありとほし薪能活動 10 周年を記念し薪能を実施した。コロナ禍以後、泉州地域での文化活動については、その影響で引き続き低調であり薪能においても観覧者の減少があり危機感がある。記念事業として、野村萬斎氏の出演を実施することにより、薪能の周知、観覧者の増加、そして能文化への一層の理解を求めることを目的として実施した。

#### ■コンセプト・ねらい

泉州地域は、大阪市内・北摂地域に比べ文化的コンテンツが非常に少ない地域であり、府下でもあまり注目されることがなかった。特に民間の有志のみでの活動のためすべてが順調には進んでいなかった。それに加えコロナ禍もあり、今後も継続的に能文化を発信する為に周年事業として実施し、更なる飛躍につなげることを目的としている。

#### ■活動実績

令和 5 年 11 月 21 日 (火) ありとほし薪能実行委員会 会議

※以後、数回会議・打ち合わせ等実施。

令和 6 年 2 月 20 日 (火) ありとほし薪能実行委員会 会議 日時等の最終決定

令和 6 年 3 月 12 日 (火) ありとほし薪能実行委員会 会議

令和 6 年 3 月 16 日 (土) チケット販売開始

令和 6 年 6 月 18 日 (火) ありとほし薪能実行委員会 会議 (反省会)

今後の目標への話し合い。「能に出来ることは何か?」「薪能のこれから」を会員で考える。

令和 6 年 5 月 9 日 (土) 17:30~20:50 ありとほし薪能

演目:「翁」、舞囃子「高砂」、狂言「昆布売」、能「蟻通」

#### ■成果・効果

新しい文化的コンテンツを創出するものを泉州地域(泉佐野市を中心として)歴史・伝承の中からは考えている折、謡曲「蟻通」の存在に注目した。日本遺産日根荘に関係する歴史的文献である「政基公旅引付」にも地元で演じられた能への賞賛が記されていることから能文化による発信を地元の有志が中心となって能演目を実施されたのが始まりである。2014 年、ゆかりのある地である蟻通神社に場所を移し、第 1 回「ありとほし薪能」が実施された。最初は珍しさもあり非常な盛況となった。しかし場所が屋外であるため天気によって左右される事や、コロナ禍も相まって参加者は大きく減少することとなる。

今回、戦時中の強制移転という悲劇的歴史にともなう遷座 80 年、実行委員会結成 10 周年そして会場となる舞殿の床の新調による記念事業として、野村萬斎氏をむかえ薪能を実施した。

今回の演目は「翁」、能「蟻通」、狂言「昆布売」、舞囃子「高砂」、仕舞「自然居士」「草子洗小町」など記念講演にふさわしい縁起の良いものや地元にはゆかりの演目が演じられた。今回の参加者については470名という結果になり、第1回の参加者を大きく上回る結果となった。

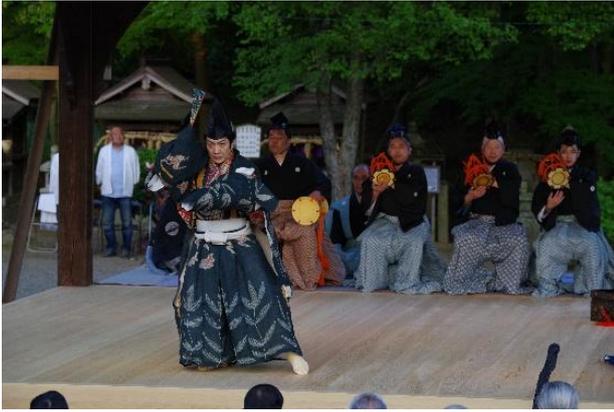
今回のアンケート結果を見ると(137人回答)、前回まで全体の8割が泉佐野市内の参加者だったのに対して、今回の結果では49人と全体の約1/3が泉佐野市以外の府下および他府県の参加者であった。また、ありとほし薪能を初めて見たという人が60人と非常に多い結果となった。いずれも薪能の存在を知らしめる良い結果となった。

## ■今後の展開

今回の助成金により、周年事業の薪能は非常な成功を収めた。このことは当委員会においても今後の運営に対して、活動している会員たちの大いなる自信となった。その一方で、能文化の発信そして定着を考えながら活動してきたが、それは一方では伝統をひたすら繰り返すので良いのかという疑問が出てきた。コンテンツの少ない地元地域の文化の発展を考えると、泉州地域にある伝承をテーマとした新しい能の創出、そしてそれを演ずる場所の新たな開拓を考えた。その中で、何か共通点のようなものがあればと議論になった。その話の中で、蟻通神社という名称の神社が本社以外に3社(和歌山県に2社、奈良県に1社)存在する。本事業終了後、会員の中には、交流を活発化させたいとして3神社への訪問を実施した。その訪問に対しては概ね好意的な印象であるとのことである。「蟻通」というものをさらに一歩深く掘り下げ一方、地元の伝承を元にした「創作能」をつくり出し、そしてそれらを演じる場所(できれば共通項多い)の開拓などが意見として出された。



2024年5月9日(土)実施  
蟻通神社 遷座80周年記念 第9回「ありとほし薪能」



2024年5月9日(土)実施  
蟻通神社 遷座80周年記念 第9回「ありとほし薪能」